

## 筑波大学 体育専門学群 外国学校経験者特別入試（第2種） ※旧 帰国生徒特別入試

### 【試験概要と出題傾向】

現行の「外国学校経験者特別入試」（第2種）は2025年度（令和7年度）に改定されたもので、それ以前は、「帰国生徒特別入試」という名称で実施されていた。定員は、若干名だったものが10名（第1種とあわせて）へと拡大されている。選考は、小論文・面接・実技試験が課され、出願書類と合わせて総合的に判定される。小論文の出題形式は、自身の意見を述べるというよりは、課題についての説明が求められ、制限時間内（60分）に、日本語と英語両方で書くことになる。出題テーマは、体育・スポーツ・健康分野から幅広くとられている。

### 過去5年間の出題

出題年度	課題
2026 (令和8)	スポーツを行うことは、すべての人にとって権利となっています。これを守るために必要な、多様性 (diversity) 公正性 (equity) 包摂性 (inclusion) の三つの観点を具体的に説明しなさい。なお、同じ内容を、日本語及び英語でそれぞれの解答用紙（日本語用、英語用）に15～20行で記述しなさい。
2025 (令和7)	自らの専門競技に重要となる行動体力の要素を1つ以上取り上げ、その要素を高める方法を3つ以上のトレーニングの原理・原則に触れながら説明しなさい。なお、同じ内容を、日本語及び英語でそれぞれの解答用紙（日本語用、英語用）に15～20行で記述しなさい。
2024 (令和6)	実施なし
2023 (令和5)	運動やスポーツは体の健康に効果的ですが、けがを引き起こす危険性もあります。自分が興味を持っているスポーツ種目による捻挫または打撲の発生原因を2つ挙げ、それらの予防のためにスポーツの実施前に注意すべきことを2つ説明しなさい。また、捻挫や打撲が発生した際、治りを早くする応急手当の方法についても説明しなさい。なお、同じ内容を、日本語及び英語でそれぞれの解答用紙（日本語用、英語用）に20～25行程度で記述しなさい。
2022 (令和4)	運動技能の上達過程の3段階について、それぞれの段階の名称を挙げ、各段階の特徴について説明しなさい。また、上達過程は練習量に比例せず曲線的であると言われていています。この練習曲線の特徴について説明しなさい。なお、同じ内容を、日本語及び英語でそれぞれの解答用紙（日本語用、英語用）に20～25行程度で記述しなさい。

※小論文の試験時間は60分間。以前は、120分だった。

### 【対策】

体育・スポーツについての知識を蓄えることが重要である。例えば、2022年度に出題された上達過程の3段階の名称や練習曲線の特徴、2024年度のトレーニングの原理・原則などは、事前に学習していなければ対応は難しいだろう。「正解」を書くためには、日本の「保健体育教科書」を入手し、保健編・体育編の各単元を体系的に学習する必要がある。また、日本語と英語の双方で同じ内容を書くことが求められるため、両者の表現レベルに大きな差が出ないように注意したい。特に体育・スポーツの専門用語については、英語でどのように表現するかを事前に確認しておくことが望ましい。いずれにしても、制限時間内に簡潔で分かりやすく表現できるよう、十分なトレーニングを積んでおく必要がある。